

2 授業展開

単元名：第3学年 公民的分野 「地球社会の危機を救うために」 (総時数：12時間)

〈単元のねらい〉 地球環境問題を多面的・多角的に考察し、問題の因果関係や相互関係を把握するとともに、地球環境問題に対する自分なりの考えを持つことができる。

(学級の生徒数：36名)

課題把握 地球環境問題を意識させ、単元学習の意欲付けを図る段階

動機付けと
課題設定・
分担

(1時間)

(1) 「太陽は友達ではない！日にあたらないようにしましょう」という言葉を提示し、その意味を考える。

これは、1987年オーストラリアのタスマニア島で貼り出された掲示物です。生徒達には「なぜ？」という疑問が湧き上がりました。

(2) ビデオ教材を視聴する。

(3) ビデオ教材との関連から、次のような学習課題を設定する。

2050年の未来のために…
地球環境問題について考えよう！

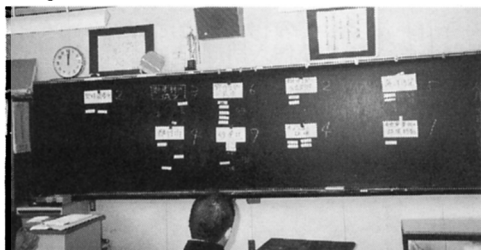
(4) 個別追究課題を設定し問題を分担する。

個別追究課題は、『環境白書』(平成11年度版)に地球環境問題として提起されている次の9つの問題を提示しました。

- ① 地球温暖化
 - ② 酸性雨
 - ③ 熱帯雨林の減少
 - ④ 海洋汚染
 - ⑤ 野生動物の減少
 - ⑥ 砂漠化
 - ⑦ オゾン層の破壊
 - ⑧ 開発途上国の公害問題
 - ⑨ 有害廃棄物の越境移動

(5) 同じ問題を調べる生徒同士で、「調査班」を編成する。(4人一組：計9班)

まず生徒の希望を名札マグネットで示させます。その後、教師が生徒の実態(特性、人間関係等)を考慮し人数を調整しました。4人一組の「調査班」が9つ出来ました。



(6) 右のような学び方カードを用いて、この単元の学習の流れと進め方を確認する。

ビデオ教材

『未来からの電子メール～環境に国境はない～』
(毎日EVRシステム)

「おじいちゃん、おばあちゃんの暮らしが地球を汚しました。もうきれいにすることはできません。
～あなたの孫より～ 2050年」

2人の高校生に2050年の未来から、不思議なメールが届きました。そこから、2人の高校生は様々な地球環境問題を調べていきます。(様々な問題がダイジェストで映し出されていきます。)そして、このメールの宛先の「おじいちゃん、おばあちゃん」とは、実は現在の高校生であったという設定です。

〈学び方カード〉

遠征学習 No.1
「2050年の未来のために… 環境問題について考えよう！」

クロス・セッションとは…

これから、おん分母十数時間かけて、環境問題について学習していきます。今回は「クロス・セッション」という方法を中心に学習を進めていくことになります。

クロス・セッションとは、学習の過程で、学習の目的に応じて関係者のグループを編成し、協力し合い、結果的に、個別追究、調査、話し合い、討論、作品制作などの多様な学習活動を展開していく活動です。

② これからの学習の進め方

1 追究・交流活動 地球環境問題の現状や関連をとらえる

0 課題を把握し、「調査班」をつくる(1時間)

(1) 第一次追究活動：「調査班」の中で分担した環境問題を調べる(2時間)

(2) 第一次交流活動：調査結果を相互交換する(1時間)

(3) 第二次追究活動：再び「調査班」で調べる(1時間)

(4) 第二次交流活動：再び相互交換する(1時間)

2 制作・交流活動 社会科新聞を制作し、自分の考えを深める

(1) 第一次制作活動：「新聞制作班」をつくり、1回目の新聞を制作する(1時間)

(2) 第一次交流活動：「調査班」に戻り、新聞を相互評価する(1時間)

(3) 第二次制作活動：2回目の新聞を制作する(2時間)

(4) 第二次交流活動：全体の中で再び新聞を相互評価する(1時間)

3 まとめ・発展(1時間)

今回は、このように「調査班」と「新聞制作班」の2種類のグループを中心に学習を進めていきます。そこで、授業の約束です。

(1) その時間ややるべきことは必ずやる、自分の責任を果たそう。

(2) どうせやるならよりよいものをつくろう。

(3) 誰のためでもない、自分にとってよい経験にしよう。